

産地生産基盤パワーアップ事業  
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 鳥取県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)	補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	
					現状				目標				実績				事業実施前年度	目標年度											
					年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度	面積			生産量又は出荷量	価格(販売単価)									生産コスト
鳥取市農業再生協議会、岩美町農業再生協議会、八頭町農業再生協議会、智頭町農業再生協議会	1	鳥取市、岩美町、八頭町、智頭町	アスパラガス	アスパラガス産地の形成の推進 ①鳥取型低コストハウスの導入及び生産資材導入による収量向上・長期安定生産への取組 ②高品質・安定供給による販売力強化への取組を推進することにより、販売額10%以上の増加を実現する。	販売額の10%以上の増加	H27	31,597千円	8.60 ha	33.65 t	939 円/kg	-	R2	43,983千円	9.71 ha	46.80 t	939 円/kg	-	R2	39,630千円	8.37 ha	39.32 t	1,008 円/kg	-	0.993	39,357千円	62.6%	令和2年産は、重要病害虫である茎枯病・アザミウマの発生を抑制しつつ、立茎・灌水・施肥を中心とした適切な栽培管理による品質の向上と収量の増加を目指した。併せて、病害虫の発生が原因で株の養成がなかったほ場では、早朝の樹勢回復に向け引き続き株の養成に努めた。 しかし全体として、春の低温・梅雨の長雨・夏の猛暑といった天候不順により樹勢の維持が困難だったことに加え、8月下旬には病気が発生した結果、前年に比べ5%程度収量が低下した。次年度以降も引き続き防除の徹底を始めとした適切な栽培管理・高温対策を行っていく。更に、現地指導会等を活用し、生産者に簡易雨よけハウスの効果も確認してもらいながら推進を行い、品質の向上・収量の増加に繋げたい。また、新たに栽培に取り組む生産者もいる一方で高齢・病気を理由に栽培を辞める生産者もあり、栽培面積が横ばいとなっている。広報紙等を積極的に活用し、引き続き栽培面積の拡大も図っていく。	・生産資材及び鳥取型低コストハウスの導入により販売額10%以上の増加に取り組んだものの、天候不順による病害虫の発生や面積減少などがあったため、目標である販売額は達成率62.6%となった。 ・今後の改善策として、現地では栽培指導を継続し、雨よけ栽培推進を含めた面積拡大に向けた支援を行う。	
北栄町農業再生協議会	3	北栄町(果菜類)	野菜(イチゴ、小玉スイカ)	北栄町海岸・平坦部における果菜類施設産地の形成推進 鳥取型低コストハウスの導入による栽培環境の改善により、計画的に産地・ブランド化の拡大へ取り組む。	販売額の10%以上の増加	H28	イチゴ 0円 小玉スイカ 30,874千円 計 30,874千円	イチゴ 0 小玉スイカ 5.01 ha 計 5.01	イチゴ 0 小玉スイカ 128,070 kg 計 128,070	イチゴ 0 小玉スイカ 241.1 円/kg 計 241.1	-	R2	イチゴ 34,928千円 小玉スイカ 35,170千円 計 70,098千円	イチゴ 0.83 小玉スイカ 5.71 ha 計 6.54	イチゴ 29,107 小玉スイカ 145,900 kg 計 175,007	イチゴ 1,200 小玉スイカ 241.1 円/kg 計 400.5	-	R2	イチゴ 42,428千円 小玉スイカ 49,643千円 計 92,071千円	イチゴ 0.83 小玉スイカ 4.71 ha 計 5.54	イチゴ 34,197 小玉スイカ 139,030 kg 計 173,227	イチゴ 1,240.7 円/kg 小玉スイカ 357.1 円/kg 計 531.5	-	0.954	87,836千円	145.2%	イチゴは順調に規模拡大により、R2年度に目標といた面積に達した。また栽培技術も向上したことから、生産量が目標以上に増加した。その結果、販売額は目標を上回った。小玉スイカは、品質、単価が良かったため、販売額は目標以上となったものの、低コストハウスの導入により品質向上が図られ、単価が向上した。その結果、商品とも目標販売額は目標以上となったものの、面積、生産量は目標未達となった。今後は、軽量で儲かる品目として地域内で小玉スイカのPRを行い、栽培面積の拡大に取り組んでいきたい。 結果として、イチゴ、小玉スイカの合計販売額の達成率は、145.2%（価格補正後）と、最終目標以上を達成することが出来た。 今後も地域の関係者で丸となって、産地としての生産力、ブランド力を高めるよう努めていく。	・鳥取型低コストハウスの導入により、イチゴの栽培面積が0.83haとなり、生産量、単価とも目標を上回る成果を得られた。 ・小玉スイカでは、生産者の減少もあり面積は目標に達し回って達成することが出来た。 ・小玉スイカは、品質、単価が良かったため、販売額は目標以上となったものの、面積、生産量は目標未達となった。 ・その結果、商品とも目標販売額は目標以上となったものの、面積、生産量は目標未達となった。 ・今後も地域協議会と協力し、産地の維持発展に努めていく。	